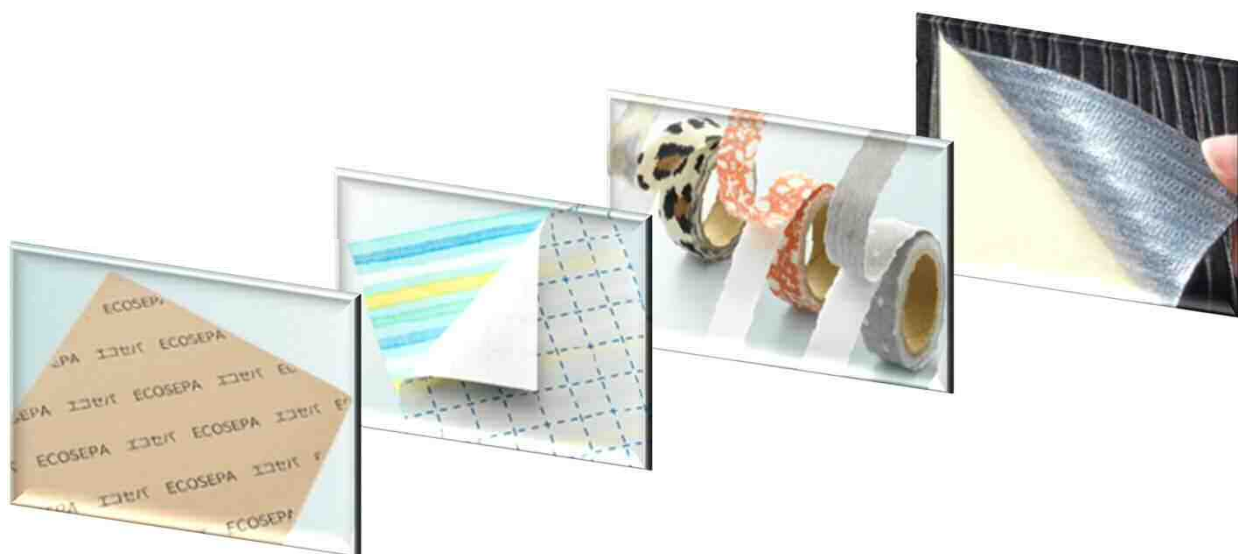


環境経営レポート

第02号

(運用期間:2023年4月1日～2024年3月31日)



発行日：2025年1月30日

シノムラ化学工業株式会社



目 次

I. 組織の概要		P 1
II. 環境経営方針		P 2
III. 実施体制		P 3
IV. 環境経営目標		P 4
V. 環境経営計画		P 5
VI. 環境経営目標の実績・取組結果並びに次年度の環境経営目標		P 6
VII. 環境経営計画の取組結果とその評価, 及び次年度の環境経営計画 ※補足実績資料		P 7
VIII. 当社の取り組み		P 10
IX. 環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果, 並びに違反, 訴訟などの有無		P 13
X. 代表者による全体の評価と見直し・指示		P 14

I 組織の概要

1. 事業者名及び代表者名

シノムラ化学工業株式会社
代表取締役社長 大橋 宏行

2024年6月25日 取締役会より就任
代表取締役社長 伊藤 泰広

2. 所在地

名 称	所 在 地	建築面積	備 考
本社・静岡工場	静岡県袋井市国本291	11,935m ²	今回の認証対象
東京事務所	東京都	—	今回の認証対象外

3. 環境管理責任者、事務担当者の氏名及び連絡先

環境管理責任者 : 大村 健一
事務担当者 : 鈴木 恵司

TEL : 0538-42-7161 FAX : 0538-42-7164
E-mail : k-ohmura@shinomura.co.jp
k-suzuki@shinomura.co.jp

4. 事業の概要

紙・布剥離基材の製造・加工・販売

5. 事業規模

2024年3月31日現在

項 目	内 容
売上高	37億6790万円(2023年4月～2024年3月)
従業員数	本社・静岡工場 77名 (内訳:生産課:63名 施設課:3名 総務課:4名 品質管理課:3名 他:4名)

6. 事業年度 毎年 4月1日～翌年 3月31日

7. レポートの運用期間及び発行日

環境経営レポートの運用期間(2023年4月1日～2024年3月31日)

環境経営レポートの発行日(2025年1月30日)

8. 対象範囲

活動: 紙・布剥離基材の製造・加工・販売

対象組織: 本社静岡工場
※東京事務所は4年後に認証取得予定

Ⅱ 環境経営方針

[基本理念]

シノムラ化学工業(株)は地球環境の保全が最重要課題の1つであることと認識し、環境負荷の軽減を図り、環境の保全と社会への貢献を目指す。

[基本方針]

当社は事業活動による環境影響を評価した結果に基づき以下の方針で技術的、経済的に可能な範囲で環境マネジメントシステムの継続的な改善を図る。

- ① 環境関連の法令、条例、各自治体との協定、その他内外の自主基準を守る。
- ② 大気汚染、臭気、騒音等の予防を図り環境負荷の軽減に努める。
- ③ 省エネルギー化を推進するため、照明のLED化、節電等による省電力化に取り組む。
- ④ 水資源保全のため、節水活動に努める。
- ⑤ 廃棄物の抑制のため、発生した廃棄物の分別等によって再資源化を図り埋立処分量の減量に努める。
- ⑥ 工場の環境活動は社内活動にとどまらず、工場周辺の清掃活動を通じて地域社会の一員として環境保全活動を行う。
- ⑦ 製品の開発および改良にあたっては、環境負荷の小さい製品設計、製造方法、調達方法、輸送方法の工夫に取り組むとともに、安全性に充分配慮するよう努める。

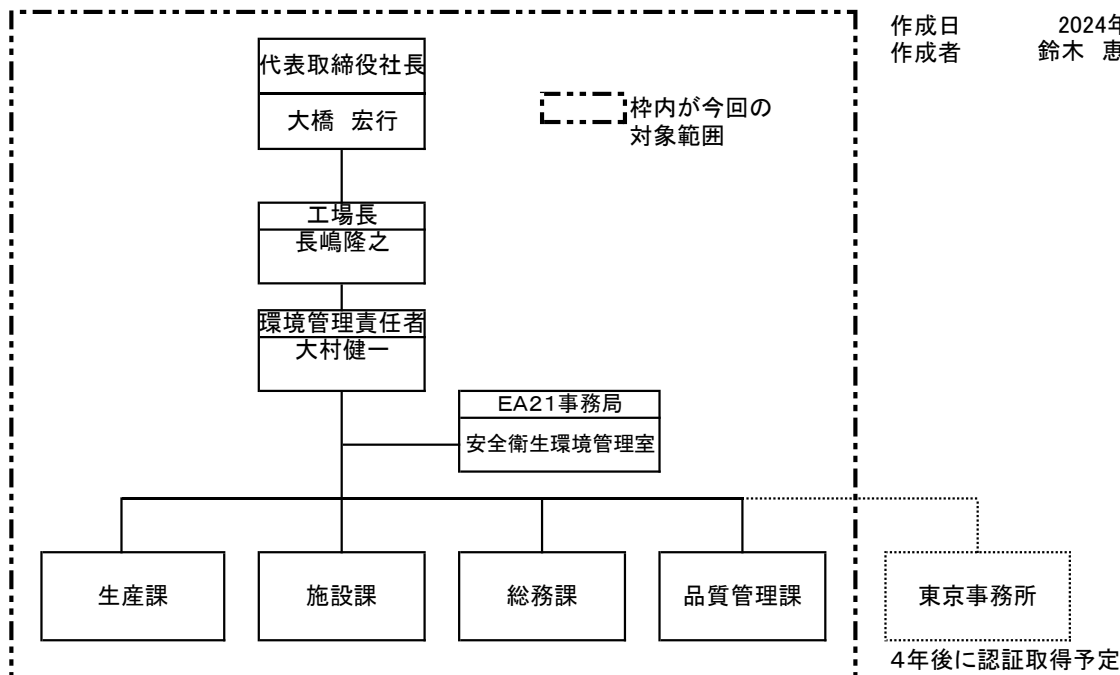
制定年月日 2020年10月1日(初版)
改定年月日 2022年10月1日(第2版)

シノムラ化学工業株式会社
代表取締役社長 大橋 宏行

Ⅲ 実施体制

作成日
作成者

2024年4月1日
鈴木 恵司



<関係者の権限と役割>

社長

- ① 環境経営全般に関する責任と権限
- ② 環境管理責任者の任命
- ③ 環境経営に必要な資源の準備
- ④ 経営における課題とチャンスを整理し、明確にする
- ⑤ 環境経営方針の制定及び改定
- ⑥ 環境経営システム全体の評価と見直し
- ⑦ 効率的な実施体制の構築と全従業員への周知
- ⑧ EA21の環境経営システムの運用のために必要となる経営資源(人・もの・資金・情報など)を用意する

工場長

- ① 工場における環境経営全般に関する責任と権限
- ② 工場における環境経営に必要な資源の準備
- ③ 工場における環境経営システム全体の評価と見直し
- ④ 工場における実施体制の構築と全従業員への周知
- ⑤ 工場が必要となるEA21の経営資源(人・もの・資金・情報など)を用意する

環境管理責任者

- ① 環境経営システム全般の運用・管理
- ② 環境経営目標及び環境経営計画の作成
- ③ 取組状況の社長への報告
- ④ 環境経営レポートの作成

EA21事務局

- ① 環境負荷データ等の集計
- ② 環境経営目標・環境経営計画の進行管理
- ③ 「環境負荷」及び「環境への取組」の自己チェックの実施
- ④ 環境管理責任者へ取組状況の報告
- ⑤ 環境関連法規等の遵守状況チェック
- ⑥ 環境上の緊急事態の想定と対応策の作成。全体での試行、訓練の実施
- ⑦ 文書・記録の管理

各部門長

- ① 部門の環境経営計画の実施
- ② 部門データの集計
- ③ 部門の問題点把握と是正対策の実施
- ④ 部門取組状況の事務局への報告
- ⑤ 部門の従業員教育

その他の従業員

- ① 自分の役割を守りエコアクション21活動を推進する

Ⅳ 環境経営目標

1. 2023年度 運用期間(2023年4月～2024年3月)の環境目標

項目	単位	基準期間		2023年度 運用期間	
		2021年4月 ～ 2022年3月		2023年4月 ～ 2024年3月	
		期間使用量	エネルギー使用量	エネルギー使用量	
総生産量(紙+布)	千㎡	125,388	基準使用量	基準原単位	目標削減率 目標値
二酸化炭素排出量	kg-CO2	4,123,377	32.88	kg-CO2/千㎡	-0.67% 32.67
内訳	電力(排出係数備考参照)	kWh	5,468,159	43.61 kWh/千㎡	-0.67% 43.32
	ガソリン	L	950	7.57 mL/千㎡	-0.67% 7.52
	軽油	L	9,948	79.34 mL/千㎡	-0.67% 78.81
	A重油	L	266,100	L/千㎡	-0.67% 2.11
	LPG	kg	326,441	kg/千㎡	-0.67% 2.59
廃棄物排出量	産業廃棄物	kg	871,860	6.95 kg/千㎡	-1.00% 6.88
	特別管理	kg	40,030	0.32 kg/千㎡	-1.00% 0.32
	一般廃棄物	kg	現状把握	現状維持	現状維持
水使用量	㎡	13,980	0.11	㎡/千㎡	-1.00% 0.11
化学物質使用量	kg	485,223	現状維持	現状維持	現状維持
エコセバ(目止め)・ノンソル製品の製造	万m	90	90	万m	90 万m
製品クレームの撲滅	件	0	0	件	0 件

<備考>

- 「購入電力」の二酸化炭素排出係数は、電気事業者別排出係数(特定排出者の温室効果ガス排出量算定用)－2022年度実績－ 2023.7.18環境省・経済産業省公表の中部電力㈱の調整後の排出係数である0.438(kg-CO2/kWh)を使用した。
- 「化学物質使用量」の削減目標は、顧客指定があり使用量削減・代替化が困難なため維持管理とする。
- 「ノンソル製品の製造」については加工数量把握とする。製品の構成内容により廃棄物排出量(特別管理)削減、および環境への負荷軽減に関わる事案である。数量把握後、総生産数量との比率にて算出し、必要に応じて目標を策定する。
- 「製品クレームの撲滅」は、0件を目標とする。

2. 中長期の環境目標

項目	単位	基準年度		目標年度			
		2021年度		2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
		2021年4月 ～ 2022年3月		2022年4月 ～ 2023年3月	2023年4月 ～ 2024年3月	2024年4月 ～ 2025年3月	2025年4月 ～ 2026年3月
		基準値	エネルギー使用量	エネルギー使用量			
総生産量(紙+布)	千㎡	125,388	基準使用量	基準原単位	目標削減率	目標削減率	目標削減率
二酸化炭素排出量	kg-CO2	4,123,377	32.88	kg-CO2/千㎡	-0.3%	-0.7%	-1.3%
内訳	電力(排出係数備考参照)	5,468,159	43.61	kWh/千㎡	-0.3%	-0.7%	-1.3%
	ガソリン	L	950	7.57 mL/千㎡	-0.3%	-0.7%	-1.3%
	軽油	L	9,948	79.34 mL/千㎡	-0.3%	-0.7%	-1.3%
	A重油	L	266,100	L/千㎡	-0.3%	-0.7%	-1.3%
	LPG	kg	326,441	kg/千㎡	-0.3%	-0.7%	-1.3%
廃棄物排出量	産業廃棄物	kg	871,860	6.95 kg/千㎡	-0.5%	-1.0%	-1.5%
	特別管理	kg	40,030	0.32 kg/千㎡	-0.5%	-1.0%	-1.5%
	一般廃棄物	kg	現状把握	現状維持・管理	現状把握	現状維持管理に努める	
水使用量	㎡	13,980	0.11	㎡/千㎡	-0.5%	-1.0%	1.5%
化学物質使用量	kg	485,223	現状維持・管理	現状維持・管理	現状維持管理に努める		
エコセバ(目止め)・ノンソル製品の製造	万m	—	90	万m	90	90	95
製品クレームの撲滅	件	—	0	件	0件	0件	0件

<備考>

- 「購入電力」の二酸化炭素排出係数は、電気事業者別排出係数(特定排出者の温室効果ガス排出量算定用)－2022年度実績－ 2023.7.18環境省・経済産業省公表の中部電力㈱の調整後の排出係数である0.438(kg-CO2/kWh)を使用した。
- 「化学物質使用量」の削減目標は、顧客指定があり使用量削減・代替化が困難なため維持管理とする。
- 「ノンソル製品の製造」については、加工数量把握とする。製品の構成内容により廃棄物排出量(特別管理)削減、および環境への負荷軽減に関わる事案である。数量把握後、総生産数量との比率にて算出し、必要に応じて目標を策定する。
- 「環境経営の継続的改善(顧客満足度の向上)」は、現状把握のみとする。

V 環境経営計画

(運用期間:2023年4月～2024年3月)

環境活動項目			管理部署	スケジュール											
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
二酸化炭素の削減	エコ運転・管理	A 電動フォークリフトの使用	生産課長												
		B 車両の不必要なアイドリング禁止													
		C 急発進・急加速の禁止													
		D 出荷の効率的配車(同方面地域への出荷まとめ)													
		E 社用車の走行記録・給油記録													
	空調等	A 工場内の旧式空調設備を新式空調設備へ更新(使用電力軽減による省エネ化・冷却効率向上)	施設課長	設備投資にて随時実施											
		B 事務所空調設備の更新(使用電力軽減による省エネ化・冷却効率向上)													
	工場・事務所	A 工場照明の省エネ化(LED、無電極ランプ化)	施設課長	設備投資にて随時実施											
		B 事務所LED照明化		設備投資にて随時実施											
		C 未使用設備の電源OFF(工場設備・照明消灯等)													
		D デマンドコントロール実施													
		E C3号機: 気化排出トルエンの熱源利用(希釈利用後、熱源再利用しLPG使用量を削減する)	生産課長												
		F 段取り時間の短縮(同品種・着色順の効率化等)													
		G 5S推進(6月中旬・12月年間 5S表彰)	5S事務局												
廃棄物の削減	総務課長	A コピー用紙の両面使用	総務課長												
		B 封筒などの再利用													
		C 廃棄コピー用紙(シュレッダー後含む)のリサイクル													
		D 産業廃棄物をリサイクル可能な有価物へ取扱先を変更・推進													
	安全衛生環境室長	E 一般廃棄と各種産業廃棄との分別処理(廃棄場所のマップ設置)	安全衛生環境室長												
		F 産業廃棄物のリサイクル率向上(固形燃料化等へ分別し埋め立て廃棄の軽減推進)													
		G リサイクル可能な有価物を分別													
水使用量の維持管理	施設課長	A 空冷冷却設備の使用(水冷却設備の補助)	施設課長												
		B 水循環型冷却設備の使用(水を循環利用し排出を抑制する)													
		C 冷却設備の定期清掃(配管清掃による冷却効率の維持管理)		年度初め(4・5月実施)											
		D 節水活動の推進	全課長												
化学物質使用量の維持管理	安全衛生環境室長	A 使用化学物質のSDS入手	安全衛生環境室長												
		B 使用量の把握(官庁への報告・PRTR等)													
	施設課長	C C2:ノンソル(トルエン未使用)設備導入	施設課長												
		D C3:気化排出トルエンの熱源利用設備													
		E L5:気化排出トルエンの回収再利用設備													
環境に配慮した製品づくり	生産課長	A PVA使用の目止め製品による環境負荷軽減(ポリエチレンを使用しない製品)	生産課長												
		B ノンソル(トルエン未使用)による剥離紙の製造													
経営の継続的改善		A 製品クレームの撲滅	生産課長												

VI 環境経営目標の実績・取組結果並びに次年度の環境経営目標

①2023年度 運用期間(2023年4月～2024年3月)の環境目標の実績

項目		単位	基準期間	運用期間			
			2021年4月 ～ 2022年3月	2023年4月 ～ 2024年3月			
			基準値	目標値	実績値	目標比率	評価
二酸化炭素排出量		kg-CO2	4,123,377				
全工程総生産量(紙+布)		千㎡	125,388		87,409		
二酸化炭素排出量		kg-CO2/千㎡	32.88	32.67	38.43	117.6%	×
内訳	電力	kWh/千㎡	43.61	43.32	50.68	117.0%	×
	ガソリン	mL/千㎡	7.57	7.52	10.66	141.7%	×
	軽油	mL/千㎡	79.34	78.81	85.75	108.8%	△
	A重油	L/千㎡	2.12	2.11	2.32	109.9%	△
	プロパンガス(LPG)	kg/千㎡	2.60	2.59	3.24	125.2%	×
廃棄物排出量	産業廃棄物	kg/千㎡	6.95	6.88	6.56	95.3%	○
	特別管理	kg/千㎡	0.32	0.32	0.33	104.0%	△
	一般廃棄物	—	現状把握				
水使用量		㎡³/千㎡	0.11	0.11	0.14	123.0%	×
化学物質使用量		kg	現状把握				
エコセパ(目止め)・ノンソル製品の製造		万m	—	90	100	111.1%	○
製品クレームの撲滅		件	0	0	4		×

○:達成 △:110%未満 ×:未達成

※各実績値の試算については『補足 実績値資料』を参照

<評価>

全般	原因	基準期間と運用期間を比較すると、運用期間の生産量が大幅に減少している。生産量減少の影響により作業効率が大きく低下したと考えられる。結果、千㎡当たりのエネルギー使用量の原単位が悪くなり目標に対する評価が未達となった。 補足2資料:2022年度と2023年度を比較すると、昨年度より生産量減となっているがエネルギー消費の原単位は同程度となっている。一部エネルギー消費の低減による効果と考えられるが、長期間の観察が必要である。 産業廃棄物については有価物へのリサイクル転換により、目標削減率を達成し大きな削減効果が見られる。
	是正	エネルギー使用および二酸化炭素排出については運用期間を長期的に観察し、今後も年間での実態把握に努めると共に、節電・節水等のエネルギー消費削減に努める。 産業廃棄物については削減効果が大きく、削減の持続・維持管理に努める。

②次年度の環境経営目標

変更なし

VII 環境経営計画の取組結果とその評価、及び次年度の環境経営計画

(運用期間: 2023年4月～2024年3月)

環境活動項目			責任者	評価	コメント	今後(次年度)の取組内容
二酸化炭素の削減	エコ運転・管理	A 電動フォークリフトの使用	生産課長	○	継続実施	継続実施
		B 車両の不必要なアイドリング禁止		○		継続実施
		C 急発進・急加速の禁止		○		継続実施
		D 出荷の効率的配車(同方面地域への出荷まとめ)		○		継続実施
		E 社用車の走行記録・給油記録	総務次長	○		継続実施
	空調等	A 工場内の旧式空調設備を新式空調設備へ更新(使用電力軽減による省エネ化・冷却効率向上)	施設課長	—	2023年度未計画	継続実施
		B 事務所空調設備の更新(使用電力軽減による省エネ化・冷却効率向上)		—	次年度で計画	継続実施
	工場・事務所	A 工場照明の省エネ化(LED、無電極ランプ化)	施設課長	○	前年までに実施済 定期清掃の実施	継続実施
		B 事務所LED照明化		○		完了
		C 未使用設備の電源OFF(工場設備・照明消灯等)		○		継続実施
		D デマンドコントロール実施		○		継続実施
		E C3号機:気化排出トルエンの熱源利用(希釈利用後、熱源再利用しLPG使用量を削減する)		○		継続実施
		F 段取り時間の短縮(同品種・着色順の効率化等)	生産課長	○	継続実施	
		G 5S推進(6月中旬・12月年間 5S表彰)	5S事務局	○	継続実施	
廃棄物の削減	A コピー用紙の両面使用	総務次長	○		継続実施	
	B 封筒などの再利用		○		継続実施	
	C 廃棄コピー用紙(シュレッダー後含む)のリサイクル		○		継続実施	
	D 一般廃棄と各種産業廃棄との分別処理(廃棄場所のマップ設置)	安全衛生 環境室長	○		継続実施	
	E 産業廃棄物のリサイクル率向上(固形燃料化等へ分別し埋め立て廃棄の軽減推進)		○		継続実施	
	F リサイクル可能な有価物を分別		○		継続実施	
水使用量の削減	A 空冷冷却設備の使用(水冷設備の補助)	施設課長	○		継続実施	
	B 水循環型冷却設備の使用(水を循環利用し排出を抑制する)		○		継続実施	
	C 冷却設備の定期清掃(配管清掃による冷却効率の維持管理)		○		継続実施	
	D 節水活動の推進	全課長	○	節水を周知	継続実施	
化学物質	A 使用化学物質のSDS入手	安全衛生 環境室長	○	排熱回収の定期清掃実施	継続実施	
	B 使用量の把握(官庁への報告・PRTR等)		○		継続実施	
	C C2:ノンソル(トルエン未使用)設備導入	施設課長	○		継続実施	
	D C3:気化排出トルエンの熱源利用設備		○		継続実施	
	E L5:気化排出トルエンの回収再利用設備		○		継続実施	
環境に配慮した製品づくり	A PVA使用の目止め製品による環境負荷軽減(ポリエチレンを使用しない製品)	生産課長	○	計画通り	継続実施	
	B ノンソル(トルエン未使用)による剥離紙の製造		○		継続実施	
経営の継続的改善	A 製品クレームの撲滅	生産課長	○	計画通り	現状把握するため継続実施	

<備考>

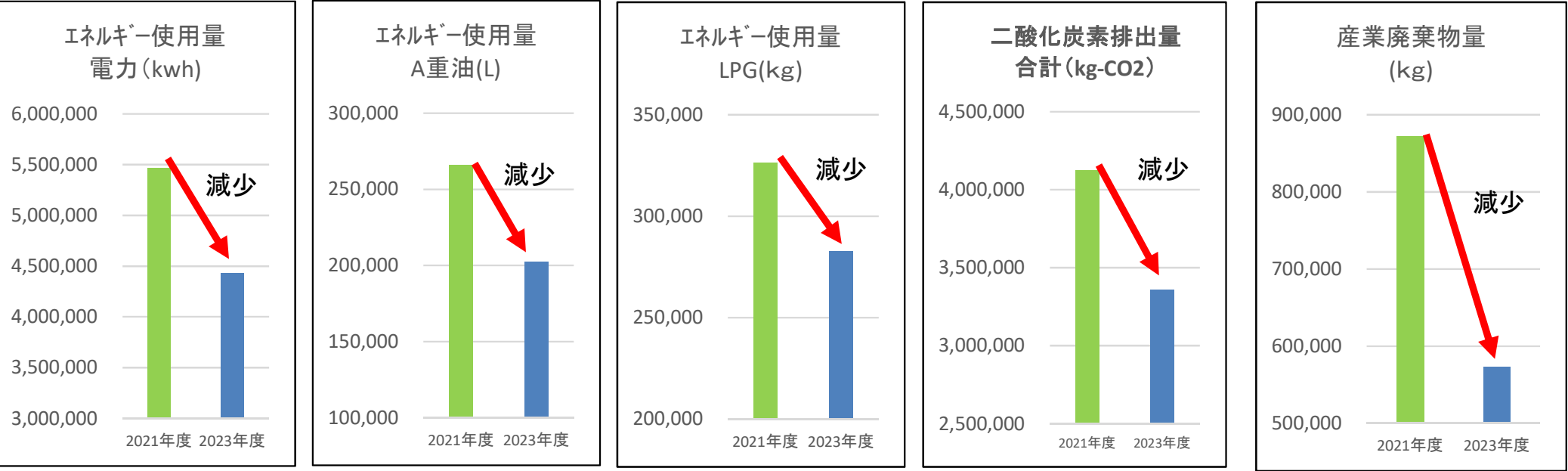
評価判定: ○(良くてきた) △(まあまあできた) ×(できなかった) -(実施が見送られた)

補足1:実績値資料(対基準期間比)

1. 実績値
1)実績値一覧(対基準期間比)

排出量			エネルギー使用量		二酸化炭素排出量						
			2021年度 4月～3月 基準実績値	2023年度 4月～3月 実績値	二酸化炭素 排出変換		2021年度 4月～3月 ④	2023年度 4月～3月 ⑤	減少量 =⑤－④	減少比率 =⑤／④	
二酸化炭素排出量(合計)		kg-CO2 (合計)	4,123,377	3,359,029	排出 係数 ③	kg-CO2 (合計)	4,123,377	3,359,029	-764,347	81.5%	
エネルギー使用量			エネルギー使用量実績値			二酸化炭素排出量					
			①	②		内訳	④=①×③	⑤=②×③			
内訳	電力	kWh	5,468,159	4,429,550	0.438	kg-CO2	2,395,054	1,940,143	-454,911	81.0%	
	ガソリン	L	950	932	2.320	kg-CO2	2,203	2,162	-41	98.2%	
	軽油	L	9,948	7,495	2.580	kg-CO2	25,665	19,337	-6,328	75.3%	
	A重油	L	266,100	202,444	2.710	kg-CO2	721,131	548,624	-172,507	76.1%	
	LPG	kg	326,441	282,921	3.000	kg-CO2	979,324	848,762	-130,562	86.7%	
廃棄物排出量			2021年度 4月～3月 ⑦	2023年度 4月～3月 ⑧	廃棄物排出量				減少量 =⑧－⑦	減少比率 =⑧／⑦	
内訳	産業廃棄物	kg	871,860	573,173	内訳	産業廃棄物	kg	-298,687	65.7%		
	特別管理	kg	40,030	28,745		特別管理	kg	-11,285	71.8%		
水使用量		m³	13,980	11,868	水使用量		m³	-2,112	84.9%		
							生産量(千m³)	125,388	87409	69.7%	

2)実績値グラフ
※基準期間『2021年度4月～2022年3月』 対 『2023年度4月～2024年3月』比較値



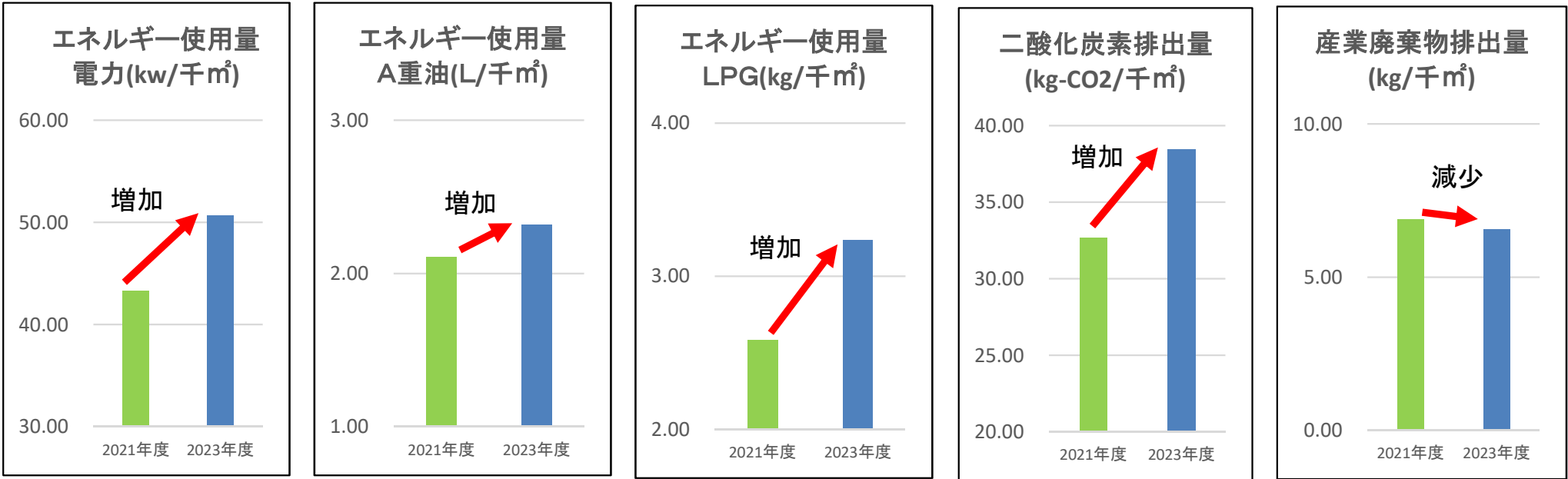
2. 生産数量(千㎡)単位 比較値

1) ㎡単位削減実績一覧

㎡単位変換			基準値	2021年度 4月～3月 目標値	2023年度 4月～3月 実績値	目標 削減率	目標比率	対目標 増減結果
生産数量 千㎡				125,388	87409			
二酸化炭素排出量		kg-CO2/千㎡	32.88	32.67	38.43	-0.7%	117.6%	増加
エネルギー 使用量 内訳	電力	kWh/千㎡	43.61	43.32	50.68	-0.7%	117.0%	増加
	ガソリン	mL/千㎡	7.57	7.52	10.66	-0.7%	141.7%	増加
	軽油	mL/千㎡	79.34	78.81	85.75	-0.7%	108.8%	増加
	A重油	L/千㎡	2.12	2.11	2.32	-0.7%	109.9%	増加
	LPG	kg/千㎡	2.60	2.59	3.24	-0.7%	125.2%	増加
廃棄物 排出量	産業廃棄物	kg/千㎡	6.95	6.88	6.56	-1.0%	95.3%	減少
	特別管理	kg/千㎡	0.32	0.32	0.33	-1.0%	104.0%	増加
水使用量		m³/千㎡	0.11	0.11	0.14	-1.0%	123.0%	増加

2) 生産数量(千㎡)単位 比較値グラフ

※『2021年度4月～3月』 対 『2022年度4月～3月』比較値

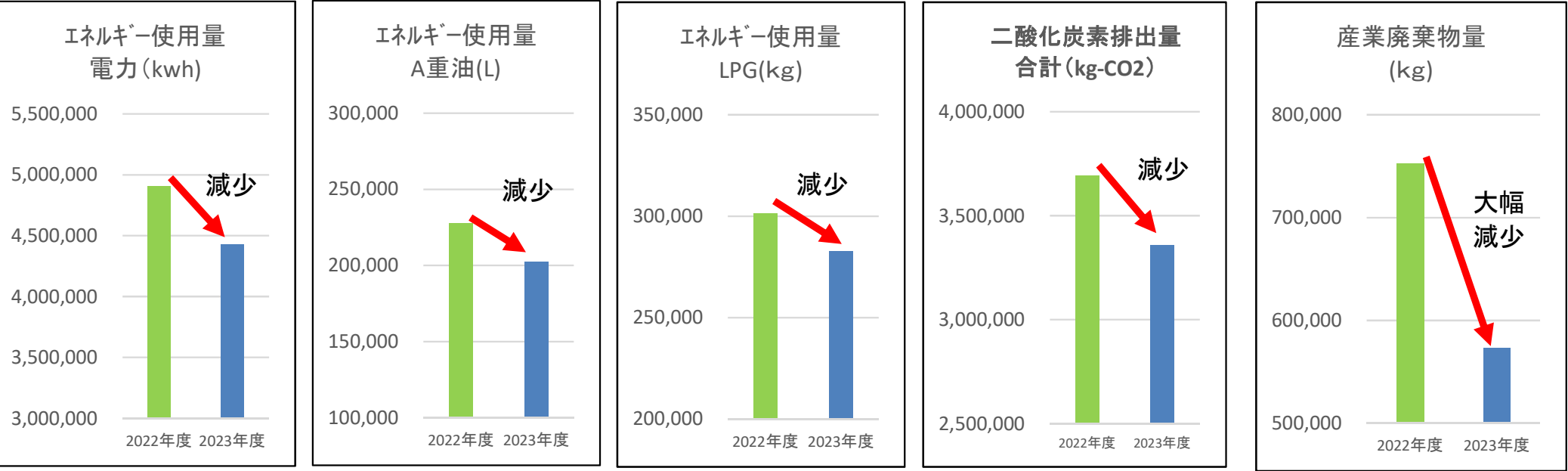


補足2:実績値資料(対昨年度比)

1. 実績値
1)実績値一覧(対昨年度比)

排出量			エネルギー使用量		二酸化炭素排出量						
			2022年度 4月～3月 実績値	2023年度 4月～3月 実績値	二酸化炭素 排出変換		2022年度 4月～3月 ④	2023年度 4月～3月 ⑤	減少量 =⑤－④	減少比率 =⑤／④	
二酸化炭素排出量(合計)		kg-CO2 (合計)	3,694,878	3,359,029	排出 係数 ③	kg-CO2 (合計)	3,694,878	3,359,029	-335,849	90.9%	
エネルギー使用量			エネルギー使用量実績値			二酸化炭素排出量					
			①	②		内訳	④=①×③	⑤=②×③			
内訳	電力	kWh	4,907,328	4,429,550	0.438	kg-CO2	2,149,410	1,940,143	-209,267	90.3%	
	ガソリン	L	1,010	932	2.320	kg-CO2	2,343	2,162	-181	92.3%	
	軽油	L	8,494	7,495	2.580	kg-CO2	21,915	19,337	-2,577	88.2%	
	A重油	L	227,683	202,444	2.710	kg-CO2	617,022	548,624	-68,397	88.9%	
	LPG	kg	301,396	282,921	3.000	kg-CO2	904,189	848,762	-55,427	93.9%	
廃棄物排出量			2022年度 4月～3月 ⑦	2023年度 4月～3月 ⑧	廃棄物排出量				減少量 =⑧－⑦	減少比率 =⑧／⑦	
内訳	産業廃棄物	kg	752,333	573,173	内訳	産業廃棄物	kg	-179,160	76.2%		
	特別管理	kg	36,803	28,745		特別管理	kg	-8,058	78.1%		
水使用量		m³	12,320	11,868	水使用量		m³	-452	96.3%		
							生産量(千m³)	98,839	87409	88.4%	

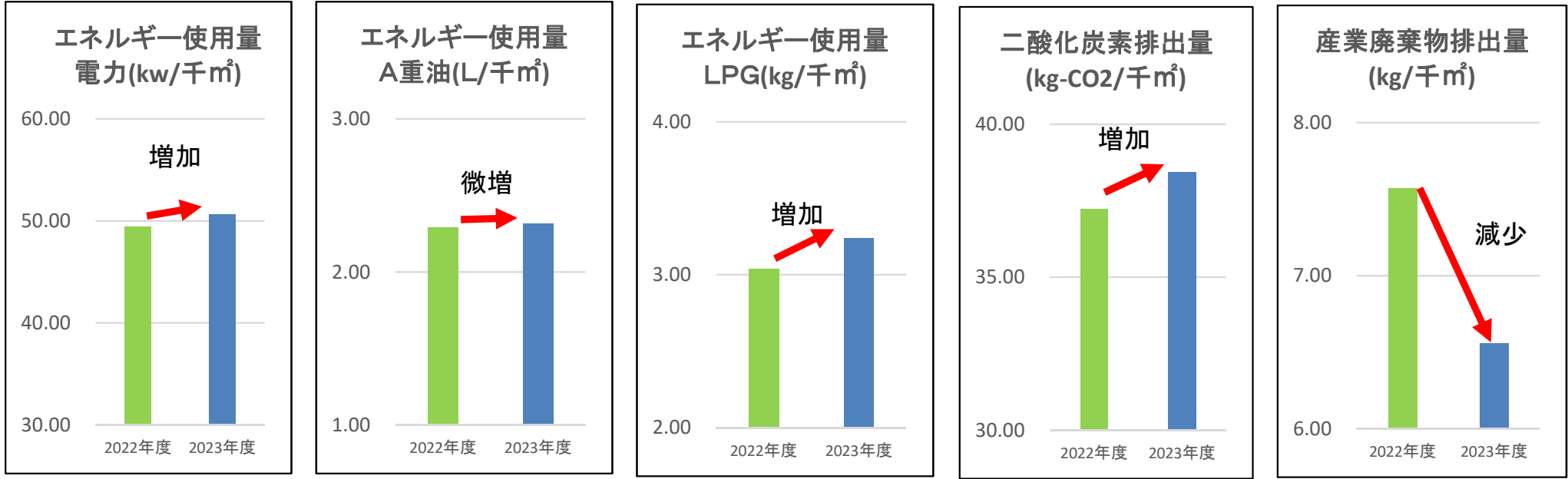
2)実績値グラフ
※『2022年度4月～3月』 対 『2023年度4月～3月』比較値



2. 生産数量(千㎡)単位 比較値
1) ㎡単位削減実績一覧

㎡単位変換			基準値	2022年度 4月～3月 目標値	2023年度 4月～3月 実績値	目標 削減率	目標比率	対目標 増減結果
生産数量 千㎡				98,838.97	87,409.28			
二酸化炭素排出量		kg-CO2/千㎡	37.38	37.23	38.43	-0.4%	103.2%	増加
エネルギー 使用量 内訳	電力	kWh/千㎡	49.65	49.45	50.68	-0.4%	102.5%	増加
	ガソリン	mL/千㎡	10.22	10.18	10.66	-0.4%	104.8%	増加
	軽油	mL/千㎡	85.94	85.59	85.75	-0.4%	100.2%	削減維持
	A重油	L/千㎡	2.30	2.29	2.32	-0.4%	100.9%	維持
	LPG	kg/千㎡	3.05	3.04	3.24	-0.4%	106.6%	増加
廃棄物 排出量	産業廃棄物	kg/千㎡	7.61	7.57	6.56	-0.5%	86.6%	減少
	特別管理	kg/千㎡	0.37	0.37	0.33	-0.5%	88.8%	減少
水使用量		m³/千㎡	0.12	0.12	0.14	-0.5%	109.5%	増加

2) 生産数量(千㎡)単位 比較値グラフ
※『2022年度4月～3月』対『2023年度4月～3月』比較値



VIII 当社の取組み

☆☆ 省エネルギー化の推進 ☆☆

(設備計画投資にて省エネルギー化を随時推進しています。)

<<製造工場の照明を無電極ランプ および LED化>>



光量が必要な照明は無電極ランプ化



天井の照明をLED化

<<蛍光灯照明のLED化>>



工場内の蛍光灯照明をLED化



事務所の蛍光灯照明をLED化

☆☆ 水資源の保全 ☆☆



空冷冷却設備により水冷冷却設備を補助する

☆☆ 節水・節電活動の呼び掛け ☆☆



☆☆ 化学物質の環境負荷軽減・省エネ利用 ☆☆

＜＜希釈利用したトルエンを燃焼し熱源として再利用＞＞



＜＜希釈利用したトルエンを回収し再利用＞＞



希釈利用後の気化トルエンを回収し、再度希釈トルエンとして再利用する

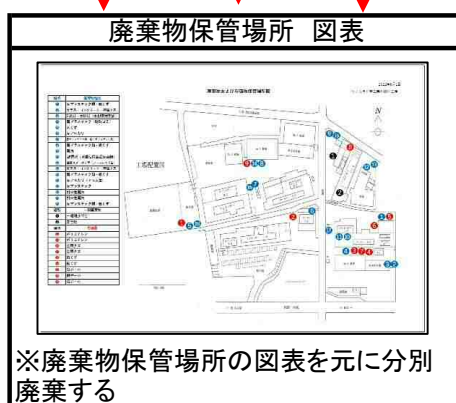
☆☆ 地域の一員として社会参加 ☆☆

＜＜敷地境界線・国道歩道生垣の除草・清掃活動＞＞



☆☆ 廃棄物の分別リサイクル☆☆

<<各職場にて廃棄物を分別>>



Ⅸ 環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟などの有無

1. 環境関連法規等の遵守状況

当社に適用される環境関連法規等の遵守状況を確認した結果、違反はありませんでした。

評価日 2024年6月20日

評価者 環境管理責任者 大村健一

法律・条例		条項	遵守事項または規制基準	当社の適用及び対応	遵守結果
義務	法令・条例	大気汚染防止法	第3条	排出基準の遵守	○
			第6条	ばい煙発生施設の設置の届出	熱媒ボイラ(C2、C3、C4)
			第11条	氏名の変更等の届出	○
			第17条の3	揮発性有機化合物の排出基準	○
			第17条の5	揮発性有機化合物排出設備の設置の届出	C3、C4コーナー、L5ラミネーター装置
			第17条	設置の構造等の変更の届出	○
		消防法	第9条	少量危険物及び指定可燃物の貯蔵及び取扱基準 火を使用する設備、構造及び管理	市町村条例で定める 指定可燃物:紙屑、プラスチック類等 火を使用する設備(ボイラー・変電設備等)
			第11条	指定数量以上の危険物保管の届出	指定数量以上の危険物の保管の消防署への届出
			第13条	危険物の取扱作業に関して保安の監督	危険物取扱者の設置
		ボイラー及び圧力容器安全規則	第91条	設置報告	ボイラー設置(C2、C3、C4、L5)
			第94条	定期自主検査	○
		騒音規制法	第5条	規制基準値の遵守	○
			第6条	特定施設の届出	空気圧縮機・送風機・切断機
		振動規制法	第5条	規制基準値の遵守	○
			第6条	特定施設の届出	圧縮機
		浄化槽法	第5条	浄化槽の使用開始報告書の提出	使用開始から30日以内に県知事へ提出
			第7条	設置後の水質検査の実施	設置3ヶ月経過後の日から5か月の間
			第10条	浄化槽の保守点検及び清掃の実施	保守点検及び定期清掃の実施
			第11条	指定検査機関による水質に関する検査の実施	法定検査の実施(1回/年)
		廃棄物処理法(廃棄物の処理及び清掃に関する法律)	第6条の2第6項	市町のルールに従った分別と搬出及び業者委託	業者委託時は許可証確認(契約書作成が望ましい)
			第12条第2項	廃棄物の悪臭・飛散・地下浸透防止	保管場所での環境被害防止
			第12条第2項	産業廃棄物保管場所への掲示板の設置	掲示板設置(60cm×60cm以上の大きさ)
			第12条第5項	産業廃棄物運搬業者並びに処分業者との委託契約	契約書の締結及び保存
			第12条第9、10項	産業廃棄物多量排出事業者の処理計画及び実施状況報告	6月30日までに許可権者に報告(前年度発生量が千トン超のとき)
			第12条の2第8項	特別管理産業廃棄物管理責任者の選任	有資格者を選任(特管排出事業者のみ)
			第12条の3第1項	マニフェストの交付	A票(委託時、電子マニは3日以内)
			第12条の3第2、6項	マニフェストの保管	A票〜E票:5年間
			第12条の3第6項	マニフェストの期間内返却の確認	B2及びD票:90日以内、E票:180日以内
			第12条の3第7項	産業廃棄物管理票交付等状況報告	6月30日までに許可権者に報告(電子マニ分は猶予)
			第12条の3第8項	産業廃棄物管理票の期間内未返却時の許可権者への報告	返却期間終了後30日以内に許可権者に報告
		静岡県産業廃棄物の適正な処理に関する条例	第8条	産業廃棄物管理責任者の設置	資格は問わない
			第10条	実地確認の実施と記録保存	処分委託先の年1回の実地確認と記録作成5年間保存(委託先が優良認定業者であるときは免除)
		愛知県産業廃棄物の適正な処理に関する条例	条例第8条第1項	県外産業廃棄物の搬入の届出	県外産業廃棄物搬入届出書(様式第1):搬入30日前までに届出
			条例第8条第1項	県外産業廃棄物の搬入状況の報告	県外産業廃棄物搬入届出書(様式第3):毎年6月30日までに、その年3月31日以前の1年間の搬入状況を報告
			条例第8条第2項	県外産業廃棄物の搬入変更の届出	県外産業廃棄物搬入届出書(様式第2):搬入15日前までに届出
		家電リサイクル法(特定家庭用機器再商品化法)	第6条	特定家庭用機器廃棄物の収集・運搬をする者等への適切な引き渡し、料金の支払	指定家電廃棄時のサイクル料金の支払
		工場立地法	第8条第1項	変更の届出	○
		労働安全衛生法	第6条22項	有機溶剤作業主任者の選任	有機溶剤作業主任者の設置
			第65条	作業環境測定の実施(第2種有機溶剤)	作業環境測定(1回/半年)
			第66条	特殊健康診断の実施(屋内作業場における有機溶剤業務に常時従事する労働者)	特殊健康診断実施(1回/半年)
		省エネ法(エネルギーの使用の合理化に関する法律)	第4条	エネルギー使用量の合計が1,500kl/年以上の事業者は届出	エネルギー使用量(原油換算)の把握
		地球温暖化対策推進法	第25条	温室効果ガス算定排出量の報告	温室効果ガスの把握
		フロン排出抑制法(フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律)	第16条	冷凍空調機器:全ての第一種特定機器が対象 ①自身での「簡易点検(3ヶ月に1回以上)」実施 圧縮機電動機定格出力に応じた有資格者による「定期点検」 ②空調機(50kW以上)1年に1回以上 ③空調機(7.5kW〜50kW未満)3年に1回以上 ④冷凍冷蔵機器(7.5kW以上)1年に1回以上	①企業・法人の管理者が確認 ②、③、④ 有資格者による定期点検実施
			第41条	第一種特定製品廃棄等実施者の引渡義務	製品管理者のフロン類回収業者へのフロン類の引き渡し義務
		リサイクル法(資源の有効な利用の促進に関する法律)	第4条	指定再資源化製品のリサイクル(適正廃棄)	パソコン、小型二次電池等の廃棄時
		化学物質排出把握管理促進法 PRTR法	法律第86号	政令で指定された物質(第一種指定化学物質等)の届出	指定物質の排出量・使用量が年間1t以上取扱う場合、当該年度の6月30日までに提出

評価判定:○:問題無し ×:未達成

2. 違反、訴訟等の有無

当社に対し関係機関からの指摘、利害関係者からの訴訟や苦情は過去3年間ありませんでした。

騒音規制法第5条規制基準値:国道や高速道路の暗騒音が高く基準値を超過している箇所があります。測定結果を袋井市へ提出しており、指導事項はありません。

X 代表者による全体の評価と見直し・指示

作成日:2025年 1月30日
作成:鈴木恵司
報告:大村健一

1・見直し関連情報	項 目	確認 : (必要に応じて評価・コメント記載)
	1 エコアクション21文書	☒ とくになし
	2 環境経営目標及び目標達成状況	☒ 生産数量減少のため目標達成できませんでした。
	3 環境経営計画及び取り組み実施状況	☒ 取組を継続しています
	4 環境関連法規要求一覧及び遵守状況	☒ 法規遵守への取り組みを引続きおこなっていきます
	5 外部コミュニケーション・対応記録	☒ コミュニケーション記録を残します
	6 問題点の是正・予防措置の実施状況	☒ 騒音への対応を継続しています
	7 取引先、業界、関係行政機関、その他の外部動向	☒ とくになし
	8 その他()	☒ とくになし

2・代表者による全体評価・見直し指示	生産量の減少により、生産効率が落ちたため、二酸化炭素排出量の原単位は増加し、特別産業廃棄物排出量削減の目標達成はできなかったが、産業廃棄物は削減できており、引続き、ロス削減に取り組んでいく。また、節電、節水、廃棄物分別など、少しでも環境への負荷を減らすよう努力していく。 2025年 1月 30 日 シノムラ化学工業株式会社 代表取締役社長 伊藤 泰広		
	見直し項目	変更の必要性	「有」の場合の指示事項等
	1 環境経営方針	無	
	2 環境経営目標	無	
	3 環境経営計画	無	
	4 実施体制	無	
	5 その他のシステム要素	無	
	6 その他(外部への対応)	無	